



お陰様を持ちまして、令和二年の除夜の鐘突きは、感染者を出すことなく無事に終える事が出来ました。事前予約制、手袋着用など、例年に無い対策が必要となり、だいぶ神経を使う事になりましたが、参列者様の前向きな気持ちや梵鐘に乗り移り、仏様の功德が音を通じて広がる様子を感じました。

「災い転じて福となす」
正にその様な時間でした。ご予約ご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。

観音様の功德

良啓

首都圏から始まった緊急事態宣言が一月十九日に沖縄県でも発出されました。終息の見えない状況は、経済だけでなく、精神的にも我々を追い詰めます。更に冬の厳しい寒さと相まって、元気がない人が増えた気がします。その様な方に明るい話題を届けたいと思い、真言宗でも頻繁にお唱えする観音経をご紹介します。

観音経はその名の通り、観音様が主人公のお経です。観音様が様々な場面や状況に合わせて現れ、摩訶不思議な功德を発揮し、私たちを救ってくださる。と言う内容になっています。例えば、

本文 仮使興害意 推落大火坑 念彼観音力 火坑變成池
意味 迫害を受け、火の穴に落とされても、観音様を念ずれば、火の穴は安全な池に変わる

さて、観音様は、慈悲の仏様とされています。慈悲とは無償です。見返りを求めず、損得勘定で動きません。ただそうされたいのです。

ですので、辛い時、苦しい状況下で観音様を念ずると、慈悲心の強い観音様が救いの手を差し伸べて下さります。こういったところが、たくさんのお仏様がいます。観音様が最も親しまれている理由だと思えます。ぜひ、不安な時、心配が収まらない際に、

「観音力 かのんりき」

と、お唱え下さいませ。必ず観音様があなたにお応えします。



虹がきれいですね

寺務員 三原

昨年の夏から山門前に
鮮やかな虹色の旗を立てております

写真の旗は、LGBTQ+の人々（性的少数者）の尊厳と社会的受容を求める運動を象徴する旗として、世界各地で用いられているレインボーフラッグの一種です。彼らは、性自認や性的指向のあり方が多数派とは違うことにより、社会生活を送るうえで様々な困難に直面し、国や宗教によっては深刻な迫害を受けています。

仏教ではLGBTQ+について、どのような教えがあるのでしょうか？
仏様は男性でもあり女性でもある存在ですので、仏教の經典には性的少数者を否定する表現はないそうです。住職は、仏教が尊ぶ「慈悲の心」でつながる関係性を理想とし、それは異性間であっても同性間であっても同じである、と解釈します。悩める方々が、「自分達はお参りに来てはいけない立場なのでは？」と感じていらつしやると知り、歓迎する気持ちを発信するために、山門の前にレインボーフラッグを掲げました。以来、私たち寺務員もLGBTQ+について考え、話し合う機会が増えました。LGBTQ+関連の書物を取り寄せたり、法の専門家からのお話しを聞くなどして、ハラスメントや法制度についても勉強中です。当事者が書いた本の中には、現行の法に不都合を感じない人々が思い至らなかった、繊細で深刻な問題がたくさんありました。

神宮寺の御本尊様は、男女両性であるとされる観音菩薩です。住職はじめ寺務員一同、「そういう仏様だからこそ聞き届けてくれる心の声がある」と信じ、悩める方々が安心して観音様との対話ができるよう、お寺をきれいにしてお待ちしております。

神宮寺が、LGBTQ+などで悩める方にとって、

心を軽くできる場所でありたいように

